

# 真行草

令和3年  
11月発行

第14号

毎年1回発行

編集・発行 浜松医科大学弓道部 OBOG 係 hamaikyudoobog@gmail.com

浜松医科大学弓道部 ホームページアドレス  
<http://hamaikyudo.wp.xdomain.jp/>

## 更なる飛躍に向けて



2021年3月6日 メモリーカップ

## アウシュビッツ強制収容所

弓道部師範 佐藤清昭

### 0. はじめに

コロナ禍の中、皆さんは日々、大変なご苦勞を重ねていることと思います。皆さんの努力と大きな貢献に対して、心より敬意と感謝の念を表します。

### 1. ドイツにいた頃

私はドイツに長い間留学していました。もちろん、勉強、つまり学位取得論文を書くことが優先順位のトップにありましたが、それに加えてなるべく旅をして、ヨーロッパの人と土地を肌で知り、感じることを心がけました。

しかし、時間的制約もあり、結局訪問することができず、今でも残念に思っている土地がいくつかあります。アウシュビッツ（ポーランド名：オシフィエンチム）もその内のひとつです。

### 2. アウシュビッツの強制収容所

アウシュビッツには第2次世界大戦中、（ヒットラー率いる）ナチスによって、強制収容所が建設されました（1941年）。ナチスの強制収容所はアウシュビッツだけではなく、ここは最大規模のものでした。

### 3. アウシュビッツの開放

アウシュビッツ強制収容所は、1945年（昭和20年）1月27日、ソビエト軍によって解放されました。後に明らかになったのは、アウシュビッツだけでユダヤ人が約100万人、その他の人たち（ジプシーや同性愛者たち）が約16万人、犠牲になったということです（別の資料によれば、犠牲者は150万人にのぼります）。

### 4. 生き残った人々

アウシュビッツを生き残った人々もいました。収容された人たちの数同様、生き残った人々の数も正確ではありませんが、ドイツ語の Wikipedia の情報を総合すると、7万人ほどが生きて解放されたということです。

先日、新聞に、医師で作家の鎌田實氏が、アウシュビッツ収容所を訪問した時のことを書いていました。その時に案内してくれたボランティアの人によると、過酷な収容所生活を生き残るためには、もちろん希望がなければダメだったけれど、希望だけでもだめだった。「毎日のささやかな営み」を丁寧に続けること、つまり絶望の中でも、朝起きた時に服の泥を落とし、髪の毛を整える。そんな風にして自分の尊厳を守った人々が結局は最後まで生き残ることができたそうです。

作家の五木寛之氏も確か、精神科医の فرانクル（Viktor Frankl, 1905-1997）の著書『夜と霧』を引用して、次のようなことを書いていたと思います。希望の見えない収容所の生活の中でも、「水たまりに映った青空」とか「沈みゆく夕日」を目にしてその美しさに感動したり、友人たちと一日一回、必ずウイットに富んだ話をして笑い合うことを約束していた人々が生き残った。

### 5. 大切なこと

どんなに忙しくても、しんどくても、どんなに悩んだり、絶望していたりしても、朝起きたら、髪の毛に櫛を入れ、男性はヒゲを剃り、女性はくちびるに紅を引、上着のほこりをはらい、靴のよごれを落とすというように、身の回りを整えてから人前に入る。そういう日常の小さな決まりごとをしっかりと守っていくことが、今日出会うであろう人々に対する礼儀であり、同時に自分の尊厳を守ることにつながるのでしょう。

そして「人間の文化」に対する興味と敬意、特に質の高いユーモアを忘れないことも大切であると思います。

## 6. 追記

「ユダヤ人」と聞くと、強制収容所で殺された気の毒な人々ということが「まず」私たちの頭に浮かびます（被害者ですね）。アウシュビッツほかで行われた大量虐殺は、確かに人類史上、大きな汚点の一つです。しかし「ユダヤ人の国」であるイスラエルが、1948年の正式な建国の前から、その土地に住んでいたパレスチナの人々を（精神的にはアウシュビッツに相当するほどの勢いで）虐殺し、あるいは難民キャンプに閉じ込めたこと、そしてその弾圧がいまだに続いていることを、私たちは忘れてはならないと思います。

## 準備

弓道部部长 三澤清先生（平成6年度卒）

佐藤清昭前部長から部長を引き継いで8年目になりました。昨年から続くコロナ禍の活動が続いていますが、2年間頑張ってくれた久松優作前主将から本堂一輝新主将に引き継がれています。部内の活動は、主幹の準備をしていた東国体が中止となり、新歓、追いコンなどの飲み会という形の活動はこの2年行われていません。しかし、今年は弓道という競技の特徴を利用して、オンラインでいくつかの試合（静岡県下学生弓道選手権夏季大会、五校戦、名大戦など）が行われました。本来の臨場感、慣れない弓道場での緊張感など試合勘を養う形式ではありませんが、弓道部員のモチベーションにはなっているのではないかと思います。

部内運営は、本堂主将をはじめ幹部部員の努力で大きな問題もなく良い1年であったと思います。来年も、部員全員でまとまって運営を行ってほしいと思います。2022年は、いよいよ2002年以来の西医体の主幹が20年ぶりにまわってきます。2年連続で西医体は

中止でしたので、もし行える状況になったら準備は相当大変であろうと想像されます。皆が現地で試合を行いたいと希望が大きい分、やりがいがあると思いますのでぜひ頑張ってほしいと思います。

私個人の話になりますが、私が所属する耳鼻咽喉科の教授に4月から就任しました。OB・OGの方々、現役の弓道部員から多分な祝意をいただき皆様に大変感謝しております。教授になってみるといろいろ不自由なところが増えて、時間ばかりが過ぎていく毎日です。弓道部にとっては、しばらく弓道部部長の後任を探さずにすんでよかったのかと思いますが、教授選挙の中では、弓道部部長としての活動も評価の一つになった部分もありましたので、弓道部後輩に、教授職になる予定のある方が現れましたら、すみやかに部長をお譲りしたいと思っています。それまでは、弓道部の活動のお手伝いをしていきたいと思っています。

最後になりますが、OB・OGの皆様には、日ごろから弓道部への厚いご支援をいただき大変感謝しております。今後とも、継続的なご支援をよろしくお願いいたします。

## 前主将挨拶

第33代主将 本堂一輝（医学科4年）

寒露の候、OB・OGの皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。浜松医科大学弓道部に、日頃より格別のご支援を賜り心より御礼申し上げます。

昨年度9月より一年間主将を務めさせていただきました、医学科4年の本堂一輝です。この一年は、新型コロナウイルスの影響により多くの大会が中止となり、残念ながら、OB・OGの皆様方に練習の成果を報告することは叶いませんでしたが、そのような中でも変わらずOB・OGの皆様方には多くのご支援をいただきました。部員一同大変感謝しております。

今年は、新型コロナウイルスの影響で遠征、イベン



トが次々と中止となり、試合という明確な目標のない中での部活運営には不安がありました。しかし、部員の皆はそんな私の不安をよそに和気あいあいと楽しみつつも真剣に稽古に取り組んでくれました。私は改めて、弓道というものは明確な目標がなくても弓道修練そのものが目標となること、そして、その修練は弓道を楽しめる部活という場があるからできるものだと感じました。OB・OGの皆様方が築き上げてくださった部員同士の繋がりを大切にする部の雰囲気にも私たちは支えられています。

この1年は、コロナ禍ではありましたが、幸いなことに練習を途切れることなく続けることができました。その中でオンラインでの対外試合という新たな挑戦もでき、静岡県下夏季大会（オンライン）男子団体優勝・女子団体準優勝、五校戦（オンライン）男子団体優勝などの成績を収めることができました。オンラインとはいえ、対外試合独特の緊張感を味わうことができ、練習の成果を発揮できたことは嬉しい限りです。来年2022年の西医体では浜松医科大学が主管校として運営を行うこととなっております。西医体が無事開催できますように、そしてより良い成績をOB・OGの皆様方に報告できますように、次期主将の松本萌弥のもと部員一同ますます精進して参りますので、OB・OGの皆様方には、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

以上、略儀ながら前主将挨拶とさせていただきます。末筆ながら、皆様方の一層のご躍進のほどご祈念申し上げます。

---

新主将挨拶

第34代主将 松本萌弥(医学科2年)

清秋の候、OB・OGの皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

9月より浜松医科大学弓道部の第34代主将を務めることとなりました、医学科2年の松本萌弥です。OB・

OGの皆様が築き上げてこられた伝統ある部の主将を務めさせていただくことに、大変身が引き締まる思いです。

今年度は医学科9名と看護学科3名の、合わせて12名の新入部員を迎え入れ、現役部員が24名、全体で53名という、ますます賑やかな部活となりました。緊急事態宣言に伴う部活停止等はありませんでしたが、現在では感染症対策に取り組みつつ部員一同弓道に励んでおります。これもまた、ひとえにOB・OGの皆様のご援助のおかげです。この場を借りて、ご援助を頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。また、幸いなことに来年度から西医体が再開される見通しとなり、その主幹を我々浜松医科大学が務めさせていただくことになりました。対面での大会が再開されてからもOB・OGの皆様の良い結果を報告できますよう、日々精進してまいります。

さて、私が考える主将としての役目ですが、部員が協調性をもって互いの価値観を尊重し合える部活にすること、そして部員一人一人が目的意識を持って部活に取り組むことのできる環境を作ることだと考えております。部活動は決して独りよがりで行えるものではありません。部員それぞれが協調してこそ質の良い練習、本番での実力の発揮につながると思います。この協調性を持つためには、部員全員が部活を構成する一員としての責任感を持ち、互いに支え合うと共に各個人が自分なりの目標を持って高いモチベーションを保つことが重要だと考えています。

未熟な点も多く、ご迷惑をお掛けすることも多々あるとは思いますが、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。末筆ながら皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新主将挨拶とさせていただきます。

---

前看護科主務挨拶

小峯望実(看護学科3年)

深秋の候、OB・OGの皆様におかれましては益々ご

健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。昨年より1年間看護科主務を務めさせていただきました、看護学科3年の小峯望実です。

浜松医科大学弓道部看護学科は4月に3名の1年生を新たに迎え、感染対策をしつつ日々鍛錬をしてまいりました。残念ながら今年の西看大は開催することができませんでしたが、次の開催に向けて真剣に弓道に励み、また部員全員が部活を楽しんでいくことができるよう、これからも努力したいと思います。

弓道は体配等も大切ですが、試合方法としては他のスポーツなどと違い、人と接触して行うわけではなく的中のみで勝敗が決まるものです。その強みを生かしてオンラインでの遠隔試合をいくつか行うことができました。遠征に行くことはできませんが、こうして試合ができるということに感謝し、そこで得た経験を次へと繋げていかなければならないと感じました。

次期看護科主務は林茉里亜が務めます。よく周りを見ており、下級生の指導なども積極的に行い、頼りになる存在です。弓道部をより活発に成長させてくれると思いますので、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

末筆ながら皆様の御健康と御多幸を心よりお祈り申し上げ、前看護科主務の挨拶とさせていただきます。

---

新看護科主務挨拶

林茉里亜(看護学科1年)

心地よい秋風が吹き抜ける秋天の候、OB・OGの皆様におかれましては益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

9月より一年間、看護科主務を務めさせて頂くことになりました、看護学科1年の林茉里亜です。

今年度は8月中旬より部活動の休止を余儀なくされたため、10月からの部活動開始となりました。コロナ禍でなかなか普段通りの日常を送れない中、部活動を

続けることが出来ているのは幸いなことだと感じております。今年度は看護学科の新入生が3名入部致しました。彼女たちが自分たちのペースで弓道に取り組めるような環境を作っていけるように、尽力していきます。

現在対面での対外試合などに参加する機会はありませんが、部内試合やオンラインの試合での活躍を目標として、対外試合が開催された時に少しでも満足のいく結果が出せるように日々精進して参ります。又、審査などにも積極的に参加していき、自分自身の弓道を客観的に見つめていく機会も設けていきたいと考えております。

至らない点多々ございますが、温かい目で見守っていただけると幸いです。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しく願いいたします。

末筆ながら、皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、看護科主務の挨拶とさせていただきます。

---

### OB・OGの方々からご寄稿を頂きました!

浜松医科大学

川上領太先生(平成20年度卒)

2009年卒の川上領太と申します。私は卒後、磐田市立総合病院と浜松医科大学病院のたすきがけで研修を受けたのち、浜松医大小児科に入局いたしました。その後小児血液・腫瘍分野を専攻とし、2016年4月から2年間は埼玉県立小児医療センターへの国内留学も経験いたしました。現在は浜松医大小児科の大学院生として日々研究を行っております。寄稿のご依頼をいただきましたので、僭越ながらご挨拶申し上げます。

私は学生の頃、講義、実習、アルバイト以外の時間の多くは弓道場におりました。そのため、学生時代の思い出というと、その大半が弓道部での思い出です。大会、コンパ、新歓、医大祭などのイベントは勿論、日々の修練での出来事すら今でも鮮明に思い出せるものばかりで、とても充実した日々を過ごしていたと

感じます。そしてそれは、面倒を見てくださった先輩方、慕ってくれた後輩たち、気の置けない同期の仲間たちがいたからこそ、いっそう輝くものとなっているのでしょうか。

卒後 10 年以上経ち、今ではすっかり弓道場とはご無沙汰になってしまいましたが、今でも弓道部であったことの恩恵を感じることは稀ではありません。当時の仲間と話をする時間は心が休まるものですし、仕事でも他科コンサルト時などに元弓道部員がいると非常にありがたいです。学会などでばったり合うこともしばしばあります。それがたとえ学生の頃はあまりそりが合わないと感じていた方が相手であっても、やはり弓道部の仲間と久しぶりに会うことの喜びは代えがたいものがあります。

現在も多くの部員が在籍しておられます。皆様が弓道部員として日々を充実して過ごされることが、そして卒業後も続くこのつながりを太く、強くしていきます。コロナ禍で思うように活動ができないこともあるかと存じますが、OB の一員として皆様の活動をいつも応援しております。

また、皆様とつながりを持てることを楽しみにしている OB、OG も多いと思いますので、実習や研修などで声をかけていただくと嬉しく存じます。

簡単ではございますが、以上、ご挨拶とさせていただきます。

---

浜松医科大学医学部附属病院 看護部

清水翔太郎様(平成 21 年度卒)

いつの間にか夜風が涼しくなっており、鈴虫が夏の終わりを知らせています。花火や祭り、キャンプや旅行…。イベントが無いと、一つの季節がこんなにもヌルッと過ぎ去っていくことに少し驚いています。

私が卒業して浜松医大に就職し、もう 11 年が経ちました。いろいろと変化のあった 11 年ですが、看護師としては「摂食・嚥下障害看護認定看護師」という資格を取得し、患者さんの「口から食べる喜び」を支え

るために日々奮闘しています。

認定看護師を目指したきっかけは、食道癌で手術をした患者さんの言葉です。その方は手術後も嚥下障害により食事が満足に食べられず「病気が治ったって、ご飯が食べられなきゃ死んだ方がマシだよ…」と呟き、私を見つめました。その時の虚しそうな表情は今でも忘れません。「食べる」という当たり前の行為ができなくなってしまう喪失感。その気持ちを少しでも支えられたらと思い、専門的な勉強をしてみようと挑戦しました。

資格取得から毎日のように「摂食嚥下障害」に向き合っていると、どうしても嚥下（喉の動き）ばかりに注目して煮詰まってしまうことがあります。そんな時には弓道部時代のある経験を思い出すようにしています。

私が弓道部で（珍しく）不調だった時に、先輩から『「会」に入った時に「離れ」のことは考えず、あえて「胴造り」まで意識を戻せ』と指導されたことがありました。半信半疑で言われたようにやってみたところ、目の覚めるような『離れ』が出て気持ち良くなってきたのをよく覚えています。

上手く「離れ」が出ないといっても、問題はその部分だけではないことが多いです。胴造りから、更には引く前の意識から全てが繋がって「正射」になる。「口から食べる」という行為も嚥下機能だけではなく意識や姿勢、呼吸・循環・排泄・意欲など、様々な全身活動が調和することで成立するものであり、弓道で学んだ感覚とリンクします。

「学生の本分は弓道」という先輩の教えを忠実に守り、がむしゃらに弓を引きまくったあの 4 年間で、10 年後の自分にも活きているのが感慨深く、これからも細々と弓を引き続けていけたらと思っています。最後になりますが卒業して 10 年以上経つにも関わらず、たまに弓道場に来て弓を引き、挙句の果てに矢立てまで貸してもらっているオジサンに、いつも丁寧に挨拶をしてくれる在校生の皆様、本当に感謝しております。浜松医大弓道部の益々の発展を願っております。

磐田市立総合病院

鈴木蓮先生(令和2年度卒)

深秋の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。磐田市立総合病院研修医1年目の鈴木蓮です。働き始めて半年が経ち、医師という職業の背負う責任の大きさを痛感しています。時には自分の不甲斐なさに押しつぶされそうになりながらも、気の置けない同期や先輩方に支えられ、日々厳しくも楽しい研修生活を送っています。

さて、この2年ほどは COVID-19 感染症によって私たちの生活は一変してしまいました。OB・OGの皆様におかれましても様々な制限を受けつつ日々の診療にあたられていることと思います。弓道部も例外ではなく、主要な試合はすべて中止となり、在学生の皆様においてはモチベーションの維持に苦慮する部分も多かったかのではないのでしょうか。部活だけでなく、飲み会や長期旅行といった大学生ならではの仲間たちとの貴重な時間が制限されてしまうことは仕方のないこととはいえ悲しいことです。そのような状況下でもリモート試合の開催や新規部内試合の実施など在校生の皆様が工夫して努力しながら部の伝統を引き継ごうとしてくれている姿は、卒業生としても非常にうれしく、また誇らしく感じています。いずれ活動が再開されたとき、また以前のように試合で活躍する後輩たちの姿を見ることが楽しみでなりません。

話は変わりますが、まだまだ先の見えない状況で頑張ってくれている在学生ののためにも OBOG 会としてリモート試合の環境整備等の支援をより積極的に行うことができると感じています。来年は西医体の主管を務めることにもなります(中止の可能性も高そうですが…)。僭越ながらこの場を借りて、皆様からのより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。私も微力ながら在学生の力になれるよう努めていく所存です。

末筆ではございますが、浜松医科大学弓道部の益々の発展、そして皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます、私の寄稿とさせていただきます。

静岡済生会総合病院

渡邊萌先生(令和2年度卒)

清秋の候、OB・OGの皆様、ならびに在学生の皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。令和2年度卒、静岡済生会総合病院研修医1年目の渡邊萌と申します。今回僭越ながら寄稿文を掲載していただけるということで、大変喜ばしく思っております。

さて、4月から病院で勤務し始め、私の周りの環境は大きく変化しました。半年を経て、医療に携わることの重責を身に染みて感じるとともに、自分自身の至らなさを痛感する毎日を過ごしております。そのような中でも仕事を続けられるのは、周りの先輩医師や看護師の方々、同期の存在がとても大きいです。力になってくださる人たちへの感謝を決して忘れないようにしたいと思っております。

学生時代を思い返せば、私は日々弓道部で過ごし、あまり客観的に自分の置かれている状況を見られていませんでした。今にして思うことは、弓道部がいかに幸せな環境だったかということです。OB・OGの皆様のおかげで必要な設備はしっかり整っており、多くの部員にも恵まれて関係を築くことができました。卒業し改めて、満ち足りた日々を過ごせたことを深く実感しております。

今自分は、わずかな援助という形でしか弓道部に恩返しできませんが、後輩の皆様にも実りある学生生活を送っていただきたいと望んでおります。

末筆ながら、感染症対策の最前線で働いてらっしゃる先輩方、誠にありがとうございます。OB・OGの皆様や部員の皆様とお会いできる機会は中々ありませんが、また以前のような日常が戻ってくることを切に願います。



湘南鎌倉総合病院

土屋友洋様(令和 2 年度卒)

深秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。令和 2 年度看護学科卒業生の土屋友洋と申します。今年より神奈川県にあります湘南鎌倉総合病院で看護師として働いております。卒業してから半年経ち新しい環境の中で迷うこともありますが、日々多くの事を学んでいております。振り返ると私は積極的に部活に参加する方ではなく、自分が弓道を楽しめればそれで良いと思っていた節がありました。その中で 3 年次に看護科主務となり、皆が楽しめる部活にする方法を考えるようになっていきました。『立場が人を作る』といいますように、このような経験を学生時代にできたのはとても有り難い事だと思います。またその時に培った考え方や体験は現在の生活でも大きな礎にもなっております。

今回寄稿をさせて頂くにあたり、改めてホームページや SNS を拝見させて頂きました。大会の中止や新歓の短縮化など昨年に引き続き例年とは異なる状況ではあると思いますが、その中でもオンラインの活用や新たな部内試合の実施など様々な工夫の中で部員の皆様が楽しく弓道部に参加している姿を拝見することができ、自然とこちらも微笑ましい気持ちになっております。形は変わっても OB・OG の皆様が作り上げてきた弓道部の良い部分は引き継がれていくことに喜びを感じ、また今年からは OBOG 会の一員として弓道部を支えていけることに誇りを感じております。

末筆ではございますが、OB・OG の皆様のご健勝とご多幸、今後の弓道部の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

今年度も OB・OG の方々からご寄稿を賜りました。お忙しい中、誠にありがとうございました。今年度に引き続き、来年度の会報誌にもぜひご寄稿のご協力をお願い申し上げます。



## 近況報告 (一年間の弓道部の様子と、部員からの近況報告を掲載します。)

平素よりご支援賜り誠にありがとうございます。活動が制限される厳しい状況の中、後輩たちはオンラインで試合を行うなど工夫して部活に取り組んでおります。コロナ禍以前の恵まれた環境に改めて感謝するとともに、時代に応じて形は変わっても、私たちが部活を通して得てきた学生時代のかげがえのない経験や成長を、後輩たちも少しでも感じてくれたらと願う毎日です。今後とも皆様お力添えのほどよろしくお願ひ申し上げます。

山口藍(医学科6年)



↑10月 夏のうなぎ杯(2020年度)



↑11月 秋のイソップ・竹山杯

弓道部に入部して約一年、新型コロナウイルスが猛威を振るう此中ではございますが、目標に向かって稽古に励み、気のおけない仲間たちと日々交流することができています。このような恵まれた環境を当然視することなく、お忙しい中ご支援くださるOB・OGの皆様への感謝を忘れずに、精進してまいります。

江川由愛(医学科2年)

OB・OGの皆さま、平素より多大なご支援を賜り誠にありがとうございます。今年度は、幹部学年として至らない点も多くあり、OB・OGの皆さまや先輩方の偉大さを痛感することばかりでした。その中でたくさんの人に支えていただき、弓道部はいつでも温かく活気に満ちた素敵な場所だと改めて実感いたしました。皆さまが築き、受け継いでくださった部活に携わることができ光栄に存じます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平田梨紗 (医学科4年)



↑11月 浜医王座決定戦



OB・OGの皆様、平素よりご支援賜りましてありがとうございます。またコロナ下の医療の最前線で尽力されている皆様に深く感謝申し上げます。制限されることが多いご時世ですが、私たちは出来る範囲で積極的な活動を行うことができています。コロナ下に負けず頑張る現役生を今後もサポートしていきたいと思っています。以前のように皆様と交流する機会が持たないことが非常に残念ですが、今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

伊賀由梨香(医学科5年)



↑12月 グラスカップ

新型コロナウイルス流行の影響もある中ですが、OB・OGの皆様のご支援のおかげで、質の高い練習環境を整えることができております。幹部学年になって改めて、先輩方や後輩との繋がり・協力なしでは部活は成り立たないと実感することが増え、日々感謝の気持ちでいっぱいです。今は何かと我慢しなくてはならないことが多いですが、辛抱の時期だと思い、出来ることから積み重ね鍛錬に勤しみたいと思います。

一ノ宮未来 (医学科3年)





↑12月 冬のうなぎ杯



↑3月 メモリーカップ

弓道部に入部してから早半年となりました。弓道初心者の私ですが、OB・OGの皆様のご支援と、道場に居てくださる先輩方の温かいご指導のおかげで稽古に励むことができます。このような恵まれた環境と弓道部を築き上げてくださったOB・OGの皆様へ感謝し、日々精進したいと思います。

大塚隼士 (医学科1年)

↓5月 春のイソップ・竹山杯



春には、医学科10人、看護学科3人の先輩方がご卒業され、新たに医学科9人、看護学科3人の新入生を迎えました。

OB・OGの皆様、平素よりご支援誠にありがとうございます。1年生の終わり頃にコロナが流行し始め、早2年が経とうとしています。このような状態の中でも部活ができていることに感謝し、練習のできる時に精一杯努力をしなければならないと感じるとともに、部員と楽しい時間を作っていきたいと思います。これからも浜松医科大学弓道部をよろしく願い申し上げます。

小峯望実 (看護学科3年)





↑ 5月 名大戦



↑ 6月 第二回名大戦

→ 6月 夏季県下

OB・OGの皆様には平素より多大なお力添えを賜り心より感謝申し上げます。今年は昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症により感染対策を講じながらの活動となり、多くの学びと共に改めて部活動に打ち込むことができる有り難さを感じました。引退生として少しでも後輩達に還元できるように努力していきます。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しく申し上げます。

鎌田夏海(看護学科4年)

OB・OGの皆様、いつもご支援ありがとうございます。弓道部に入部して約半年が経ち、弓を引くのもやっと慣れてまいりました。部活時間の雰囲気は、自分にとってとても居心地が良く、大切な場所となっています。これからもお手本となる良い先輩方にたくさん指導を受けながら、日々精進して参りたいと思います。

山本欣玲(医学科1年)

私が弓道部に入部してから、早一年が経過しました。例年とは違う学生生活を送る中、弓道部として活動できているのは、OB・OGの皆様方のお力添えあつてのことです。ご支援に報いることができるよう、日々鍛錬を積んでいきたいと思っています。

河野竜聖(医学科2年)





OB・OGの皆様、いつもご支援ありがとうございます。弓道部に入部して早くも6年がたち、卒業年度となりました。今年度はコロナウイルスのために試合や部活行事ができないことが多い一年でした。しかし、たくさんの後輩たちが入部してくれて、弓道部が活気ある部活でいてくれると感じました。お世話になった先輩方にさせていただいたことを、これからも後輩たちに返していけるようにしていきたいと思います。

日高のぞみ（医学科6年）



↓7月 夏のうなぎ杯（2021年度）



↑7月 主将杯

弓道部の一員となってまだ半年ですが、素敵な先輩方や同輩に恵まれ充実した日々を過ごしています。そしてOB・OGの皆様のご支援があつてこそ、毎日のように道場で弓を引くことができます。これからも感謝の心を持ち続けて弓道に励んでいきたいと思ひます。

生越あさぎ（看護学科1年）







↑7月 五校戦

OB・OGの皆様、平素より弓道部の活動に多大なるご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。幹部学年としての一年、新型コロナウイルスの影響で異例のスケジュールとなりましたが、その中でも日々の練習やオンラインでの試合を通じて部活動の運営に携わることができました。このような状況の中でも部活動全体に活気を生むことができ非常に嬉しく思っております。引退後も浜松医科大学弓道部がより良い組織となるよう、積極的に活動に関わっていく所存です。不躰なお願いではございますが、今後とも後輩へのご指導・ご鞭撻、お力添えを何卒よろしくお願いいたします。

菱田昂太郎(医学科4年)

↓8月 第二回浜医王座決定戦



## PDF ファイルについて

本年度もカラーページが多いため、より見やすいものを見ていただけるように、ホームページからダウンロードをできるようにいたしました。

是非ご覧ください。

<http://hamaikyudo.wp.xdomain.jp/>から

[アイテム]→[会報誌]にてご覧になれます。

## 試合結果 (2020.10~2021.10)

名大戦 2021.5.30

【団体戦】

男子団体 優勝

女子団体 B 優勝

【男子個人戦】

優勝 山口真央 (医学科 4年)

準優勝 栗田幸太郎 (医学科 4年)

第三位 阪部千峻 (医学科 2年)



2021.6.12

【団体戦】

男子団体 優勝

女子団体 A 準優勝

【男子個人戦】

優勝 山口真央 (医学科 4年)

準優勝 小俣尚輝 (医学科 4年)

【女子個人戦】

優勝 伊賀由梨香 (医学科 5年)

第三位 藤川佳澄 (医学科 2年)



2021.6.27

【団体戦】

男子団体 B 優勝

女子団体 A 準優勝

【男子個人戦】

準優勝 杜博文 (医学科 4年)

【女子個人戦】

準優勝 伊賀由梨香 (医学科 5年)

第四位 服部柚子 (医学科 4年)



2021.7.31

【団体戦】

男子団体 優勝

【男子個人戦】

準優勝 山口真央 (医学科 4年)

第三位 本堂一輝 (医学科 4年)

【女子個人戦】

優勝 鈴木芽依 (看護学科 3年)



学年はすべて当時のものを記載しております。



## 昇段審査結果 (2020.10~2021.10)

2020 年

11 月 第 1 回静岡県地方審査会(静岡市・中央体育館)

式段 松本萌弥 (医学科 1 年)  
一ノ宮未来 (医学科 2 年)  
大河原栞 (医学科 2 年)  
小峯望実 (看護学科 2 年)  
高林直也 (医学科 2 年)  
千頭和京太 (医学科 2 年)  
杉浦勇希 (医学科 3 年)

参段 栗田幸太郎 (医学科 3 年)  
大澤悠 (医学科 3 年)  
小俣尚輝 (医学科 3 年)

2021 年

6 月 第 2 回静岡県地方審査会(伊豆の国市・狩野側リバーサイドパーク弓道場)

初段 江川由愛 (医学科 2 年)  
加藤脩志 (医学科 2 年)  
河野竜聖 (医学科 2 年)  
阪部千峻 (医学科 2 年)  
原田昂汰 (医学科 2 年)  
林茉里亜 (看護学科 1 年)  
藤川佳澄 (医学科 2 年)

参段 杜博文 (医学科 4 年)

四段 栗田幸太郎 (医学科 4 年)  
大澤悠 (医学科 4 年)  
山口真央 (医学科 4 年)



↑ 第 2 回静岡県地方審査会の様子

学年はすべて当時のものを記載しております。



## 三澤先生の教授ご昇任

浜松医科大学弓道部部長の三澤清先生が 2021 年 4 月 1 日より、浜松医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座の教授にご昇任されました。

長年に渡り弓道部の発展にご尽力いただいている三澤先生のご昇任を祝しまして、部員一同、心よりお慶び申し上げます。先生のますますのご活躍を心より祈念しております。

三澤先生にお祝いの胡蝶蘭の鉢植えをお渡ししてまいりました。次に掲載するのは、お祝いのお花の前で第 33 代主将本堂一輝と三澤先生のお写真を撮影させていただいた時のものです。



↑ 三澤先生と第 33 代主将本堂一輝。写真中央はお祝いの胡蝶蘭。

本コラムの作成にあたり、三澤先生にインタビューへのご協力をいただきました。

——お忙しい中、インタビューへのご協力をいただき誠にありがとうございます。本日はよろしく願います。

三澤先生：よろしく願います。まずは、教授就任にあたり数多くの弓道部先輩、後輩の皆様からお祝いのお言葉をいただき大変感謝しています。

——ありがとうございます。それではまず、臨床面・研究面におけるご専門の内容について簡単に教えていただけますでしょうか。

三澤先生：私の専門は、耳鼻咽喉科です。市立病院などの耳鼻科はすべての疾患を扱わなければなりません。大学病院では専門性をもって診療にあたります。私は専門医を取ってから、頭頸部がんの治療と研究を専門としています。最近では睡眠時無呼吸の診療も行っています。

——臨床面、研究面、教育面等、今後の目標について教えていただけますでしょうか。

三澤先生：研究機関の講座として、研究面の充実が一番の目標になります。静岡県の医療を担っている浜松医大の臨床力は他大学と比べて劣るところか優れている分野が多くあります。ですが基礎研究では、都市部の大学に負けてしまう面があります。若い先生達に十分な研究ができる環境を作ることが、私の大事な仕事になると思っています。また浜松医大卒業の教授として講座をこえて、頑張っている卒業生を応援していきたいと思っています。

——教授にご昇任されてから、何か変化などございましたか。

三澤先生：私は、他の講座の教授と違って内部から昇格しましたので環境の変化は少ないと思います。単身赴任せずに家族と生活ができるのは助かります。会議やメールに時間を取られる毎日ですが致し方ないと思っています。これまで、県内の研究会など疲れていれば会場の後ろで居眠りできましたが、教授になってからは一番前で座っていないといけないため多少しんどいなと感じています。

——貴重なお話をありがとうございます。続いて、OBOG 会の先生方へメッセージをお願いいたします。

三澤先生：佐藤清昭先生から部長を引き継ぎ 8 年になりました。この間にもたくさんの OB・OG が医療者として育っていきました。OB・OG が活躍されているのを大変心強く感じています。今後も弓道部への温かいご声援、ご援助をよろしく願いいたします。さらに期待するところは、若い弓道部出身の専攻医、臨床研修医の先生方に、大学で仕事をすることを希望する人がもっと増えてほしいと思っています。そして、弓道部部長をお任せできる先生に引き継ぎたいと思います。

——最後に、弓道部部員へメッセージをお願いいたします。

三澤先生：今日、卒業アルバムの写真を撮りに弓道場に行かせてもらいました。いつもと変わらず礼儀正しく練習をしている様子を見て安心しています。この 2 年間のコロナ下での活動は大変であったと思います。残りの期間で学生らしい活動ができることを願っています。来年は、20 年ぶりの西医体主管という大仕事が待っています。多くの西医体に参加する弓道部員がどのような大会になるのか期待してい

ると思います。皆さんで力を合わせて立派に主管を執り行ってほしいと思います。

——温かいメッセージをいただき、心より感謝申し上げます。部員一同、先生のますますのご活躍を心より祈念しております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

本日はご多忙の中、貴重なお時間をいただき誠にありがとうございました。

三澤先生 ご略歴

平成 7 年 4 月 浜松医科大学耳鼻咽喉科入局

平成 13 年 1 月 浜松医科大学附属病院耳鼻咽喉科助手

平成 14 年 9 月 米国ミシガン大学耳鼻咽喉科留学

平成 17 年 4 月 聖隷三方原病院耳鼻咽喉科医長

平成 21 年 7 月 遠州病院耳鼻咽喉科診療副部長

平成 22 年 4 月 浜松医科大学附属病院耳鼻咽喉科助教

平成 25 年 3 月 浜松医科大学附属病院耳鼻咽喉科講師

平成 29 年 2 月 浜松医科大学附属病院耳鼻咽喉科病院准教授

令和 3 年 4 月 浜松医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授

## コロナ禍の活動

昨年度より、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為に様々な活動の制限を余儀なくされることとなりました。新型コロナウイルス感染症への対応が長期化する中、医療現場の最前線で奮闘されている皆様には深い敬意を表するとともに心より感謝申し上げます。

浜松医科大学弓道部においても、昨年度は 89 日にわたる活動休止を余儀なくされ、大会はすべて中止となり、部員同士の交流の機会も大幅に減ることとなりました。

今年度に入り、部内試合の再開、記録会の実施、ウェブ会議ツールを用いた対外試合の開催など、少しずつではありますが活動の幅を広げることが出来ております。「浜医王座決定戦」という新しい部内試合の開催や立ちと同様の方法で記録会を行うなど様々な取り組みを通して、部員同士で競い合う機会や自分の成長、及び課題について見直す機会を設けることにより、例年より対外試合数が減少した中でも、部員のモチベーションの維持ができるような工夫を図ってまいりました。



↑ 第二回浜医王座決定戦の様子。



↑ ウェブ会議ツールを用いた対外試合の様子。  
他大学との連絡をウェブ会議ツールを利用して行っております。射場や的場の様子をビデオで写し、的中の記録表を写真に撮り、お互いに結果を共有することで勝敗を決定します。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2021年の8月19日より再び一か月半ほどの活動休止をすることとなりましたが、現在は、ウェブ会議ツールを用いた対外試合でよい成績を残すことや昇段審査への合格を目標に掲げて各々努力を重ねております。

新歓や忘年会など、一部のイベントは未だ例年より制限が厳しい、あるいは開催できないという状況が続いております。今年度の新歓は昨年度に引き続き、例年よりも制限が厳しく、新入生との会食の禁止や新歓期間の活動回数の制限等があり、満足のいく新歓を行うことが難しい状況ではありましたが、医学科9人と看護学科3人が入部してくれました。

まだ先の見えない状況ではありますが、毎日弓道の練習に励めることの喜びを感じつつ、部員一同精進してまいります。今年度は西医体の主管という大仕事があり不安も大きいですが、OB・OGの皆様のご支援や温かいお言葉を励みに、開催の成功に向けて最善を尽くして参る所存です。今後とも変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 第 5 回 OBOG 総会について

第 4 回 OBOG 総会では、多くの OB・OG の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

今回の第 5 回 OBOG 総会の開催は未定です。今年度の開催は、新型コロナウイルス感染症の動向を鑑みて、誠に勝手ながら開催を中止させていただくこととなりました。開催を楽しみにして下さった皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

来年度、今後の状況に応じて改めて OBOG 総会の開催を検討しご連絡申し上げます。OB・OG の皆様の多くのご出席を心よりお待ちしております。

## 会費・決算報告について

OB・OG の皆様に OBOG 会費納入のご協力をお願い申し上げます。詳細は、同封の別紙をご参照ください。

また、前年度の決算報告について記載した報告書も同封いたしました。多くのご支援、深く感謝いたします。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ● 編集後記

向寒の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の流行により様々な活動の制限を余儀なくされることとなりました。新型コロナウイルス感染症への対応が長期化する中、医療現場の最前線で奮闘されている医療従事者の皆様には深い敬意を表するとともに心より感謝申し上げます。

浜松医科大学弓道部におきましても、再び約一か月半にわたる部活動の自粛を余儀なくされ、思うように弓道に打ち込むことができず、歯がゆい思いをする日々を過ごしました。十月より活動を再開し、練習不足を取り戻せるように全力を尽くすとともに、日々弓を引けることの有難さや喜びを感じております。

現在、主要な試合は開催の目処が立っておらず、ウェブ会議ツールを利用した他大学との交流戦の開催や部内試合を行っております。活動が制限される中でも、これらの大会で良い成績を残すこと、あるいは昇段審査に合格すること等、部員各自が自分の目標を持ち、精進してまいる所存です。

本年度も引き続きご支援ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

OBOG 係 大河原 葉 藤川 佳澄 小嶋 優規 乃